

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：九州大学

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	4	20	記載漏れ	5. <u>臨床薬学科を卒業すると薬剤師国家試験受験資格が与えられる。</u>
2	32	5	「医療系統合教育」（資料5、42頁）で構成される（基礎資料6、 <u>訪問時間閲覧資料9</u> 、平成29年度実務実習事前学習資料、はじめに）。	「医療系統合教育」（資料5、42頁）で構成される（基礎資料6、 <u>訪問時間閲覧資料6</u> 、平成29年度実務実習事前学習資料、はじめに）。
3	49		表6-2-1	表6-2-1訂正版
4	52	8	卒業研究との合計は <u>32.5</u> 単位に達しており	卒業研究との合計は <u>19.04</u> 単位に達しており
5	55	2	学力を持ち、 <u>学</u> の諸科目を学修し、	学力を持ち、 <u>薬学</u> の諸科目を学修し、
6	65	6	医薬品開発の <u>一旦</u> を担う	医薬品開発の <u>一端</u> を担う

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
1	1-3	4	科目の識別(薬害)	平成28年度以前入学者用カリキュラム	平成28年度以前入学者用カリキュラム訂正版
2	1-7	8	上表 ヒューマニズム教育・医療倫理教育	合計科目数 <u>8</u> 、合計単位数 <u>12</u>	合計科目数 <u>9</u> 、合計単位数 <u>10</u>
3	10	104-105	学科（表3）	<u>臨床薬学科</u> <u>(創薬科学科)</u>	<u>創薬科学科</u>
4	15	141-142 178-179			削除
5	15				追加

表6-2-1 薬学部臨床薬学科における問題解決能力の醸成に向けた授業科目（平成29年度以降）

科目名	授業内容(%)	説明	講義	実験	SGD・討論	発表	ロールプレイ	単位数	単位数に占める SGD・討論・発表時 間の割合(単位数)	備考
基幹教育セミナー		3	5		47	45		1	0.92	
課題協学科目		3	5		47	45		2.5	2.30	
自然科学総合実験				70	30			2	0.60	SGDは実験データを纏めることに充てる時間を含む
早期体験学習		40			60			1	0.60	説明(体験学習)は、病院・薬局の見学と現地スタッフによる説明時間に該当。SGD・討論は見学結果を纏めてポスターを作製する時間に該当
薬学基礎実習I～IV				67	28	5		14	4.62	SGDは実験データを纏めることに充てる時間を含む
薬学少人数ゼミナール		40			60			1	0.60	
臨床倫理			70		30			1	0.30	
インフォームドコンセント			5		60	10	25	1	0.95	SGDはロールプレイの内容・対応策等について討論
薬害			80		20			1	0.20	
チーム医療演習			5		85	10		1	0.95	
卒業研究								7	7.00	
								合計	19.04	

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

平成28年度以前入学者用カリキュラム

	3 年 次										
	科目名			前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育(基幹教育科目)			学術英語3・科学英語	前期	77	1	28	コ			1
			社会と健康	前期	45	1	28	コ			2
			薬害	秋学期	262	1	28	コ			1
薬学専門教育			有機薬化学Ⅲ	前期	80	1	28	コ			2
			薬理学Ⅱ	冬学期	80	1	28	コ			2
			薬物動態学Ⅰ	前期	80	1	28	コ			2
			薬物動態学Ⅱ	後期	30-80	1	28	コ			2
			(選)応用機器分析学	春学期	30-80	1	16	コ			1
			(選)衛生化学	春学期	30-80	1	28	コ			1
			(選)放射化学	夏学期	30-80	1	28	コ			1
			(選)臨床検査学Ⅱ	後期	30-80	1	8	コ			2
			(選)病原微生物学	春学期	30-80	1	10	コ			1
			(選)毒性学	後期	30-80	1	19	コ			2
			(選)創薬化学	前期	30-80	1	1	コ			2
			(選)分子腫瘍学	後期	30-80	1	13	コ			2
		(選)薬学少人数ゼミナール	後期	80	1	28	コ	S		1	
実習			薬学基礎実習Ⅰ	春学期	77	1	28	ジ			3
			薬学基礎実習Ⅱ	夏学期	77	1	28	ジ			3
			薬学基礎実習Ⅲ	秋学期	77	1	28	ジ			4
			薬学基礎実習Ⅳ	冬学期	77	1	28	ジ			4
演習											
単位数の合計								(必須科目)			26
								(選択科目)			13
								合計			39

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S e-learning=e
 実習=ジ 演習=E

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

		ヒューマンズム教育・医療倫理教育
		教養教育科目
		語学教育科目
		医療安全教育科目
		生涯学習の意欲醸成科目
		コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(選)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。
 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

大学追記：平成28年度以前入学者のカリキュラムにしたがって作成。

教養教育・語学教育(基幹教育科目)については、他学部と合同で実施される科目もあるため、薬学部臨床薬学科の履修者数のみを記載。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州大学	講座名 創薬育薬研究施設統括室	職名 教授	氏名 西田基宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年10月～ 2016年4月～ 2017年4月～ 2017年11月	総合研究大学大学院生命科学専攻教授 名古屋市立大学大学院薬学系研究科客員教授 タイMahidol大学大学院薬学研究科客員教授 熊本大学リエゾンラボHIGO Program Seminar大学院講義
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Cysteinyl-tRNA synthetase governs cysteine polysulfidation and mitochondrial bioenergetics.	共著	2017年10月	Nature Communications誌 8巻1号1177頁
(論文) TRPC3-Nox2 complex mediates doxorubicin-induced myocardial atrophy.	共著	2017年8月	JCI Insight誌2巻15号 pii: 93358.
(論文) TRPC3-GEF-H1 axis mediates pressure overload-induced cardiac fibrosis.	共著	2016年12月	Scientific Reports誌 6巻 39383頁
(論文) TRPC3 positively regulates reactive oxygen species driving maladaptive cardiac remodeling.	共著	2016年8月	Scientific Reports誌 6巻 37001頁
(論文) The purinergic P2Y6 receptor heterodimerizes with the angiotensin AT1 receptor to promote angiotensin II-induced hypertension.	共著	2016年1月	Science Signaling誌9巻 411号ra7
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Cardiovascular Aging Regulated by Heterodimerization of Angiotensin AT1 Receptor with Purinergic P2Y6 Receptor.		2018年2月	Angiotensin Gordon Research Conference 2018. Ventura (CA, USA)
(演題名) Metabolic detoxification of environmental electrophile by reactive cysteine persulfides.		2017年6月	Korea/Russia joint symposium 2017 (Marine Effective compounds Open Wellness, Busan)
III 学会および社会における主な活動			
2013年4月～2019年3月	薬学会ファルマシア委員		
2015年3月	第88回日本薬理学会年会国際サテライトシンポジウム共催(名古屋)		
2015年12月	岡崎市矢作中学校出前講義		

2016年4月～2019年3月	日本生理学会評議員
2016年4月～2019年3月	日本毒性学会評議員
2016年4月～2019年3月	日本N0学会理事
2016年10月	岡崎市南中学校出前講義
2017年1月～2018年12月	日本循環薬理学会評議員
2017年4月～2019年3月	日本薬学会生物系薬学部会世話人
2017年4月～2019年3月	日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞等選考委員
2017年4月～2019年3月	薬学会誌BPB論文審査委員
2017年4月～2019年3月	日本酸化ストレス学会評議員
2017年9月	岡崎市南中学校出前講義
2017年11月	薬学会九州支部コロキウム主催

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州大学	講座名 細胞生物薬学分野	職名 教授	氏名 田中 嘉孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年～現在	板書やプロジェクターを利用し、具体的な例を紹介することで講義内容が理解しやすいように工夫した。中間試験を行うなど、常に学生の理解度を把握しながら講義を進めた。また、教科書に加え、最新の情報を紹介し、何が分かっていないかを学生に提示することで、学生の興味を引き出すよう心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年9月	プログレッシブ生命科学(南山堂)を分担執筆した。生命科学の基本と最新の情報を含んだ教科書であり、医学部、薬学部、歯学部はもちろんのこと、理学部、工学部など、生命科学系の幅広い分野で教科書として活用できることを目的とした。本書において、オルガネラと疾患の章の「エンドソーム」および「リソソーム」の項を担当執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年～現在 平成24年～現在	本学部において実施されたGBT、OSCEなどの共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。 学部内及び大学全体のFD研修会に参加し、積極的に自身の講義の見直しなどを行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Intracellular Dynamics and Fate of a Humanized Anti-Interleukin-6 Receptor Monoclonal Antibody, Tocilizumab	共著	2015年10月	Mol Pharmacol 88, 660-675
(論文) Inulavosin and its benzo-derivatives, melanogenesis inhibitors, target the copper loading mechanism to the active site of tyrosinase	共著	2014年5月	Pigment Cell Melanoma Res 27, 3, 376-386
(論文) Age-related disruption of autophagy in dermal fibroblasts modulates extracellular matrix components	共著	2014年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun 443, 1, 167-172
(論文) Membrane-associated RING-CH (MARCH) 8 mediates the ubiquitination and lysosomal degradation of the transferrin receptor	共著	2013年7月	J. Cell Sci 126, 13, 2798-2809
(論文) Sorting nexin 2-mediated membrane trafficking of c-Met contributes to sensitivity of molecular-targeted drugs	共著	2013年5月	Cancer Sci 104, 5, 573-583

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）UDP-グルクロン酸転移酵素 2B7 とシトクロム P450 2C8 の機能的相互作用	2018年3月	日本薬学会
（演題名）ダイオキシンによる雌児の低プロラクチン体質の形成機構：母体の育児行動抑制の寄与	2018年3月	日本薬学会
（演題名）脳の性分化における aryl hydrocarbon receptor の寄与：発達期の性ステロイド合成系に着目した解析	2018年3月	日本薬学会
（演題名）合成カンナビノイドJWH-018による脳の内因性カンナビノイドanandamideおよび2-arachidonoylglycerolの増加とその機構：CB1-KOマウスを用いた解析	2017年11月	日本薬学会九州支部大会
（演題名）メタボロミクスを通じた aryl hydrocarbon receptor の新たな生理機能の探索：尿酸レベルの変動に着目した解析	2017年11月	日本薬学会九州支部大会
（演題名）ダイオキシンによる雄児のゴナドトロピン放出ホルモン神経の成熟障害とその機構	2017年11月	日本薬学会九州支部大会
（演題名）ダイオキシン母体曝露による胎児期に一過的な成長ホルモン発現低下の毒性的意義と分子機構	2017年11月	日本薬学会九州支部大会
（演題名）妊娠期のダイオキシン曝露による複数世代にわたる低プロラクチン体質の伝播とその意義	2017年11月	日本薬学会九州支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成24年4月～平成26年3月	ポーラ化成工業㈱，皮膚状態の変化とオートリソソーム異常のメカニズム解明研究への指導	
平成27年7月～現在	大学研究セミナー：生命薬学—細胞のしくみ&創薬—，福岡県立福岡高等学校	
平成29年4月～現在	中村学園大学・栄養科学部フード・マネジメント学科，前期、火曜日5限，非常勤講師	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州大学	講座名 グローカルヘル スケア分野	職名 准教授	氏名 松永 直哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成28年～現在 平成28年～現在	<p>板書やプロジェクターを利用し、具体的な例を紹介することで講義内容が理解しやすいように工夫した。</p> <p>疑問点や理解し難い点が合った場合は、都度対応し、早急に問題点を解決できるようにした。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成16年～現在 平成28年～現在	<p>本学部において実施されたGBT、OSCEなどの共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。</p> <p>学部内及び大学全体のFD研修会には毎回参加し、積極的に自身の講義の見直しなどを行っている。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Administering xCT Inhibitors Based on Circadian Clock Improves Antitumor Effects.	共著	平成29年12月	Cancer Res. 2017 Dec 1;77(23):6603-6613.
(論文) Inhibition of G0/G1 Switch 2 Ameliorates Renal Inflammation in Chronic Kidney Disease.	共著	平成28年11月	EBioMedicine. 2016 Nov;13:262-273. d
(論文) Circadian Clock in a Mouse Colon Tumor Regulates Intracellular Iron Levels to Promote Tumor Progression.	共著	平成28年3月	J Biol Chem. 2016 Mar 25;291(13):7017-28.
(論文) Alterations of Hepatic Metabolism in Chronic Kidney Disease via D-box-binding Protein Aggravate the Renal Dysfunction.	共著	平成28年3月	J Biol Chem. 2016 Mar 4;291(10):4913-27.
(論文) 24-hour rhythm of aquaporin-3 function in the epidermis is regulated by molecular clocks.	共著	平成26年6月	J Invest Dermatol. 2014 Jun;134(6):1636-1644.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 体内時計を基盤とした育薬・創剤・創薬研究.		平成29年11月	日本薬物動態学会
(演題名) 薬物代謝に及ぼす体内時計の影響.		平成29年7月	医療薬学フォーラム2017・第25回クリニカルファーマシーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			

平成24年8月	第37回西日本薬剤学研究会
平成24年7月	医療薬学フォーラム2012 第20回クリニカルファーマシーシンポジウム学会主催 (事務)
平成27年11月	第21回日本時間生物学会学術大会主催 (事務)
平成28年11月	第29回 日本動物実験代替法学会主催 (事務)

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州大学	講座名 医薬細胞生化学分野	准教授	宮本智文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年～現在	板書やプロジェクターを利用し、具体的な例を紹介することで講義内容が理解しやすいように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年～現在	配布教材をWebに掲示し、学生の予習復習に役立てた。過去の定期試験問題も公開し、理解の助けとした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成25年～現在	本学部において実施されたCBT、OSCEなどの共用試験ならびに実務実習に関する説明会に参加した。学部内及び大学全体のFD研修会には毎回参加し、積極的に自身の講義の見直しなどを行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Structure, Synthesis, and Biological Activity of a C-20 Bisacetylenic Alcohol from a Marine Sponge <i>Callyspongia</i> sp.,	共著	2013, July	J. Nat. Prod., 76, 1337-1342
(論文) Identification of Distinct Ligands for the C-type Lectin Receptors Mincle and Dectin-2 in the Pathogenic Fungus <i>Malassezia</i> ,	共著	2013, April	Cell Host & Microbe., 13, 477-488
(論文) Chemical composition of the essential oil of mastic gum and their antibacterial activity against drug-resistant <i>Helicobacter pylori</i>	共著	2014, July	Nat. Prod. Bioprospect., 4, 227-231
(論文) Entamoeba mitosomes play an important role in encystation by association with cholesteryl sulfate synthesis	共著	2015, May	Proc. Natl. Acad. Sci., 112, E2884-E2890
(論文) C-Type Lectin Receptor DCAR Recognizes Mycobacterial Phosphatidyl-Inositol Mannosides to Promote a Th1 Response during Infection	共著	2016, December	Immunity, 45, 1245-1257
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Isolation, structure, synthesis and anti-tumor activity of methoxy niasols from <i>Anemarrhenae</i> rhizoma		2018.02	International Symposium on Biodiversity of
III 学会および社会における主な活動			
2015.1	毒と薬の話/出前講義の講師, 宮崎県立大宮高等学校		
2015.03.26~2015.03.26	日本薬学会第135年会, 座長		
2015.06	東進タイムズライブ配信 講師, 創薬化学総論 “毒とくすりのはなし”		
2018.02.09~2018.02.11	BMPO 2018, 座長, 国際広報委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州大学	講座名 創薬育薬研究施設統括室	職名 助教	氏名 進藤 直哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		現在学部3年生対象の学生実習のみ 担当しており、授業を担当していません。	
2 作成した教科書、教材、参考書		特にありません。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特にありません。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特にありません。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(総説) Synthesis of azaheterocycles and related molecules by Tf ₂ NH-catalyzed cycloadditions	共著	2018年1月	Heterocycles, vol. 96. no. 2
(論文) コバレント阻害剤の標的特異性向上を目指した新規反応基の探索とEGFR阻害剤への応用	共著	2017年2月	Medchem News, vol. 27, no. 2
(論文) Inhibition of G0/G1 Switch 2 Ameliorates Renal Inflammation in Chronic Kidney Disease	共著	2016年6月	EbioMedicine, vol. 13
(論文) Design of Coordination Interaction of Zn(II) Complex with Oligo-Aspartate Peptide to Afford a High-Affinity Tag-Probe Pair	共著	2015年3月	Bull. Chem. Soc. Jpn, vol. 88
(論文) Design of a binuclear Ni(II)-iminodiacetic acid (IDA) complex for selective recognition and covalent labeling of His-tag fused proteins	共著	2014年3月	Bioorg. Med. Chem. Lett. vol. 24
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) CFAケミストリーによるタンパク質の不可逆阻害		2017年6月	日本ケミカルバイオロジー 学会第12回年会
(演題名) CFAケミストリーを利用した標的タンパク質特異的な不可逆阻害		2017年9月	第11回バイオ関連化学シン ポジウム
(演題名) コバレント阻害剤の標的特異性向上を目指した新規反応基の探索とEGFR阻害剤への応用		2017年10月	第35回メディシナルケミス トリーシンポジウム
(演題名) コバレントドラッグの化学(1) : CFA基の反応特性を利用したキナーゼ阻害剤の開発		2018年3月	日本化学会第98春季年会
(演題名) コバレントドラッグの化学(2) : ひずみ解消型反応基の開拓と阻害剤開発への応用		2018年3月	日本化学会第98春季年会

(演題名) CFA基を利用したコバレントドラッグ創薬	2018年3月	日本薬学会第138年会
(演題名) Selective and Reversible Covalent Modification of Non-Catalytic Cysteines with Weakly Reactive α -Chlorofluoroacetamides	2018年3月	KU-NTU Joint International Symposium on Pharmaceutical Sciences
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成29年2月	日本薬学会医薬化学部会の部会誌「Medchem News」への寄稿	
平成29年6月	万有福岡シンポジウムのポスター発表会場設営	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州大学	講座名 グローバルヘルスケア分野	職名 助教	氏名 山下智大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成29年～現在	自分が学生時代からこれまでに経験した創薬研究の成功例などを紹介することで、学生により講義内容が理解しやすいように工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年1月26日に開催された「2017年度九大拠点アカデミア創薬シンポジウム～自分の研究から薬を生み出そう！～」にて学部2年生や大学院生を対象にしたシンポジウムで講演した。 http://www.phar.kyushu-u.ac.jp/seminar/view.php?word=&page=&S_Code=124	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		本学部において実施されたCBTおよびOSCEの共用試験に参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Yamashita T , Tsuda M, Tozaki-Saitoh H, Inoue K. [Green Pharma: A New Strategy for Drug Discovery in Academia by Targeting Glial Cells and ATP Receptors].	共著	2017年 4月	Yakugaku zasshi, 138, 1027-1031
Tozaki-Saitoh H, Miyata H, Yamashita T , Matsushita K, Tsuda M, Inoue K. P2Y12 receptors in primary microglia activate nuclear factor of activated T-cell signaling to induce C-C chemokine 3 expression.	共著	2016年 10月	J Neurochem., 141(1): 100-110
Yamashita T , Yamamoto S, Zhang J, Kometani M, Tomiyama D, Kohno K, Tozaki-Saitoh H, Inoue K, Tsuda M: Duloxetine inhibits microglial P2X4 receptor function and alleviates neuropathic pain after peripheral nerve injury.	共著	2016年 8月	<i>PLoS One</i> , 11(10): e0165189
Matsumura Y*, Yamashita T *, Sasaki A, Nakata E, Kohno K, Masuda T, Tozaki-Saitoh H, Imai T, Kuraishi Y, Tsuda M, Inoue K: A novel P2X4 receptor-selective antagonist produces anti-allodynic effect in a mouse model of herpetic pain.	共著	2016年 5月	<i>Sci. Rep.</i> , 6: 32461
Tashima R, Mikuriya S, Tomiyama D, Shiratori-Hayashi M, Yamashita T , Kohro Y, Tozaki-Saitoh H, Inoue K, Tsuda M: Bone marrow-derived cells in the population of spinal microglia after peripheral nerve injury.	共著	2016年 11月	<i>Sci. Rep.</i> , 6: 23701

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
デュロキセチンによるミクログリアに発現するP2X4受容体の阻害作用および末梢神経損傷に伴う神経障害性疼痛に対する改善効果	2017年・3月	第90回日本薬理学会年会
グリア細胞およびATP受容体を標的としたアカデミア創薬の実現に向けた「グリーンファルマ研究」の取り組み	2017年・3月	日本薬学会第137年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州大学	講座名 分子生物薬学	職名 助教	氏名 川上広宣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年～現在	板書やプロジェクターを利用し、具体的な例を紹介することで講義内容が理解しやすいように工夫した	
	平成24年～現在	Task-based learningを一部の講義で実践し、その場で理解が進むように工夫した	
	平成24年～現在	疑問点や理解し難い点が合った場合は、都度対応し、早急に問題点を解決できるようにした	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年～現在	学生実習の手引き 毎年作成。概論、実際の実習手順、原理についての詳述など。A4サイズで20ページ強。	
	平成24年～現在	パワーポイント資料 学部講義（システム分子生物学）、大学員講義（細胞複製システム論・生物薬学研究英語講義）の講義資料を作成。1コマ(90分)にスライド40枚から60枚程度。	
	平成27年	学生実習の手引きの英訳 上述の学生実習の手引きを留学生向けに英訳したもの。教員3人で分担。大腸菌遺伝学と遺伝子クローニング、ピペットマンの取り扱いに関する項目を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年度	部局FD 製薬業界の環境変化を受けた今後のMR活動とメディカルアフェアーズの確立について	
	平成29年度	病院地区4部局合同男女共同参画FD 無意識のバイアスからの開放：ダイバーシティのススメ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) A replicase clamp-binding dynamin-like protein promotes colocalization of nascent DNA strands and equipartitioning of chromosomes in <i>E. coli</i>	共著	平成25年9月	Cell Reports, Vol. 4, No. 5 pp. 985-995
(論文) Specific binding of eukaryotic ORC to DNA replication origins depends on highly conserved basic residues	共著	平成27年10月	Scientific Reports, Vol. 5 Article number 14929 (計14頁)
(論文) Rapid purification and characterization of mutant origin recognition complexes in <i>Saccharomyces cerevisiae</i>	共著	平成28年4月	Frontiers in Microbiology, Vol. 7 Article number 521 (計9頁)

(論文) Near-atomic structural model for bacterial DNA replication initiation complex and its functional insights	共著	平成28年12月	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America, Vol. 113, No. 50 pp. E8021-E8030
(論文) Regulatory dynamics in the ternary DnaA complex for initiation of chromosomal replication in Escherichia coli.	共著	平成29年12月	Nucleic Acids Research, Vol. 45, No. 21 pp. 12354-12373
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(日本生化学会九州支部 学術奨励賞受賞 特別講演) 染色体DNA複製開始複合体の分子機構の解明		平成27年5月	平成27年度日本生化学会九州支部例会 (福岡)
(招待講演・ベストペーパーズ賞) 出芽酵母pre-RC形成の精製組み換え蛋白質を用いた試験管内再構成とpre-IC構成因子のリクルートメント		平成24年9月	日本遺伝学会第84回大会ワークショップWS7「原核生物に習う遺伝情報安定性の維持機構の原理」(福岡)
(招待講演) 大腸菌染色体の非コードDNA領域に存在し、細胞増殖に必要な新奇機能性配列ELIXIR		平成25年12月	第36回日本分子生物学会年会ワークショップ1AW4「ウェット個別研究とドライ研究の実践的超融合～新しい分子生物学のあり方を模索する」(オーガナイザー: 川上広宣、加藤護) (神戸)
(招待講演) 出芽酵母ORC複合体の分子内外クロストークの同定		平成26年11月	第37回日本分子生物学会年会ワークショップ3W5「ゲノムDNA複製制御のメカニズム: 生物種を超えた統一像と多様性」(横浜)
(招待講演) 出芽酵母染色体における複製起点の認識機構と制御ネットワーク解明の試み		平成26年9月	日本遺伝学会第87回大会ワークショップWS5「多角的アプローチによるゲノム維持継承研究の最前線」(世話人: 古郡麻子、川上広宣) (仙台)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成24年8月～平成24年9月	日本遺伝学会第84回大会、日本遺伝学会幹事会企画「分野別懇談会」世話人		
平成25年6月～現在	文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター 科学技術専門家ネットワーク 専門調査員		
平成27年10月～平成28年6月	第13回21世紀大腸菌研究会 開催事務局		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。